

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月20日

香川県知事 殿

提出者

住 所 香川県三豊市財田町財田上1328-1

氏 名 四国明治株式会社

代表取締役社長 元田 陽一

電話番号 0875-56-8823



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	四国明治株式会社 香川工場
事業場の所在地	香川県三豊市財田町財田上1328-1
計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	製造業
② 事業の規模	80.96億円/年(製造品出荷額)
③ 従業員数	369名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥 → 脱水及び乾燥 → 堆肥化 → 肥料に再生利用 廃プラスチック → 破碎・熔融固化 → RPFに再生利用 動植物性残さ → 選別・堆肥化 → 肥料に再生利用 廃酸 → 加熱・混合 → 飼料に再生利用 ガラス → 破碎 → ガラス原料に再利用 廃油 → 焼却 → 埋立 金属 → 破碎・圧縮 → 金属原料に再利用

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
 統括責任者 所属:香川工場 職・氏名:副工場長 山地 宏幸
 廃棄物担当者 組織名:設備環境課 職・氏名:係長 栗原 組織人数:4人
 ■環境管理委員会(・委員長:社長 ・委員:関連部署部課長 ・事務局:ISO事務局)
 ○廃棄物処理に関する検討
 廃棄物の発生抑制、再生利用、中間処理、適正処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で必要な事項を検討する。
 ■廃棄物処理 統括責任者
 ○廃棄物処理方針の策定 ○工場の廃棄物管理規程の策定・改廃 ○廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認
 ■廃棄物管理担当課長
 ○廃棄物処理計画の作成 ○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○産業廃棄物処理施設の運転・維持管理状況の把握 ○処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理 ○委託契約の締結
 ○監督官庁への各種報告 ○社員、関連会社に対する教育・啓発

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

		【前年度(平成36年度)実績】						単位:t
産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	動植物性残さ	混合廃棄物	酸廃	油		
①現状	排出量	4,962.00	64.00	55.50	7.52	47.20	0.42	

(これまでに実施した取組)
 ・材料調達の際に、簡易包装の原料を優先した。
 ・製造計画や在庫調整により排出量削減を行った。
 ・脱水効率の向上等による中間処理を推進した。
 ・納入メーカーと協議し、使用する材料の低減を行った。

		【目標】						単位:t
産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	動植物性残さ	混合廃棄物	酸廃	油		
②計画	排出量	5,000.00	60.00	55.00	5.00	45.00	0.30	

(今後実施する予定の取組)
 ・引き続き、調達の際に、簡易包装の原料を優先する。
 ・引き続き、営業・流通・製造の部門で製造量・在庫量の最適化を行う。

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状 (分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
 ・分別を徹底しマテリアルリサイクル(有価化)による減量を行った。
 ・工程ごとに投入するボックスを分けるなど分別に取り組んだ。
 ・工場内での分別作業に積極的に取り組んでいる。

②計画 (今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
 ・分別の精度を更に高め、廃棄量削減に取り組む。
 ・分別による処理先の施設を積極的に検索し、工場の分別と連動したリサイクルを実施してもらえ処理業者へ委託する。
 ・動植物性残さの分別及び場内処理により、発生抑制に取り組む。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度(平成36年度)実績】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	動植物性残さ	混合廃棄物	酸	廃油	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	
(これまでに実施した取組)								
②計画	【目標】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	動植物性残さ	混合廃棄物	酸	廃油	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0		
(今後実施する予定の取組)								

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度(平成36年度)実績】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	動植物性残さ	混合廃棄物	酸	廃油	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	4,207.44	0	0	0	0	0		
(これまでに実施した取組) 排水設備負荷低減のため、廃棄乳の水処理流入量を減らしたため、汚泥発生量が大幅に減少した。								
②計画	【目標】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	動植物性残さ	混合廃棄物	酸	廃油	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0		
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	4,300.00	0	0	0	0	0		
(今後実施する予定の取組)								

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(平成36年度)実績】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	動植物性残さ	混合廃棄物	酸廃	油	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	
(これまでに実施した取組)								
②計画	【目標】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	動植物性残さ	混合廃棄物	酸廃	油	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	
(今後実施する予定の取組)								

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(平成36年度)実績】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類	動植物性残さ	混合廃棄物	酸廃	油	
	全処理委託量	377.28	64.00	55.50	7.52	47.20	0.42	
	優良認定処理業者への処理委託量	376.90	64.00	55.50	7.52	0	0.42	
	再生利用業者への処理委託量	376.90	64.00	55.50	7.52	47.20	0	
	認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	
(これまでに実施した取組)								